

2017/12/03

「キリスト者の希望」

■神が与える希望

皆さんは、希望というと何を想像するでしょうか。クリスチャンの多くは、天国に行くことや、永遠に生きることが希望だと答えるかもしれませんが、しかし、実は、それらは希望とは言えません。なぜなら、私たちはすでにそれを手にしているからです。すでに手にしているものは希望ではないのです。

・神の国はすでに来た

人々が思い描く希望といえば、この世界がユートピアになることです。

人類の歴史の中で、戦争がなかった時代はありません。どの時代の人々も苦しみを抱え、だからこそ、この地上が楽園になる夢を抱きます。

イエス・キリストの時代の人々も、神様に対して、この地上が神の国になることを期待していました。パリサイ人たちは、イエス様に対して次のように問いかけています。

「さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。『そら、ここにある。』とか、『あそこにある。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」(ルカ 17:20-21)

イエス・キリストは、宣教の初めに「神の国は来た」と言われました。それは、イエス・キリストを信じる者は、すでに神の国のただなかに入れられており、神とともに生きているということです。つまり、クリスチャンにとって、神の国は希望ではなく、すでに現実です。

・私たちはすでに愛されている

また、神様に愛されることに希望を抱いて、一生懸命奉仕をする人々もいますが、それも誤った考え方です。この世では、がんばって成果を上げることによって報酬や対価を得るため、その考え方をひきずって、神様からほうびや祝福をいただくとしても、それは意味がありません。なぜなら、私たちはすでに完全な愛を与えられているからです。

「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ 5:8)

私たちはすでに愛されています。私たちが求める最高の祝福は、もういただいています。私たちは、美しいから愛されているわけではありません。罪人は、愛されているから美しいのです。何かをするから美しくなるのではなく、すべての人が、すでに神様に愛されている美しい存在なのです。

• 問題はすでに解決されている

私たちは、この地上で様々な問題にぶつかりますから、その解決を神様に求め、問題が解決されることに希望を抱きます。

しかし、問題とは何でしょうか。それは、出来事によって生じる恐れや不安のことです。問題の本質は、個々の出来事にあるのではなく、それを不安に思うところにあるのです。

ですから、問題の解決とは「安心」です。安心こそ、私たちが求めている問題解決の答えなのです。

この地上では、安心を保証によって手に入れています。権威ある人が保証人になってくれたら、とても安心です。そして、私たちの保証は、神の言葉です。神様が「大丈夫だ。心配するな。」と言って、保証しておられるのです。

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」(マタイ 7:7)

問題とは不安です。しかし、神の言葉という保証が与えられているのですから、問題はすでに解決されています。つまり、問題解決は、希望にはなり得ません。

■ 希望とは何か

聖書は、希望は大切なものだと教えていますが、いったい何が希望なのでしょう。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ 3:16)

「事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」(ヨハネ 6:40)

聖書が教える希望とは、永遠のいのちです。それは、単に無制限に生きることではありません。永遠のいのちとは、イエス・キリストご自身なのです。

「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。」(ヨハネ 17:3)

私たちの希望とは、イエス・キリストご自身です。私たちは、この希望をいただきました。イエス・キリストをいただくことによって、永遠のいのちを持つことができるようになったのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。」(ヨハネ 6:47)

「永遠のいのちを持ちます」とは、「持っている」という意味です。そして、イエス様は、私たちがすでに持っている永遠のいのちを、さらに豊かに持つこと

が私たちの希望だと語っておられます。

「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:10)

私たちは、イエス・キリストに接ぎ合わされることを願い、すでにそれを得ました。こうして、イエス・キリストご自身が私たちの希望となり、そのイエス様に近づいていくことが、永遠のいのちを豊かにすることになります。つまり、イエス様との交わりを深めていくことが、私たちの希望になるのです。

「そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。」(ヘブル 10:22-23)

無制限に生きることや、神に愛されること、問題解決等はすでに与えられていますから、真の希望とは言えません。永遠のいのちそのものであるイエス様にますます近づいていくことが、聖書が教える私たちの真の希望なのです。あなたは今、この希望を目指して生きているでしょうか。

■イエス・キリストに近づく

私たちがイエス・キリストに近づいていこうとすると、すなわち、永遠のいのちを豊かにしようとする、次のような変化が現れます。

1. 自由を手にするようになる

神様との交わりを深めれば深めるほど、つまり、イエス・キリストに近づけば近づくほど、私たちは自由を手にするようになります。

「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」
(ガラテヤ 5:1)

私たちはいったい何の奴隷だというのでしょうか。聖書は、私たちを支配しているのは、律法だと言っています。

神に造られた人間は、もともと神を愛したいという願いをもって生きていました。これが、人間の本质であり、第一の願望です。ところが、罪によってこの世界が神の見えない世界に変わってしまったため、神を愛したいという願望をかなえることができなくなってしまいました。その結果、愛したいという願望は、愛されたいという願望に変わってしまったのです。

この願望を叶えるためには、相手から良く思ってもらわなければならない、相手の期待に応えるしかありません。その結果、愛されたいという願望は、「ねばならない」という律法に変

わかりました。その律法の内容は、人それぞれ様々ですが、私たちをしばりつけ、自由を奪っているのは、愛されたいという願望によって手にした律法なのです。私たちは、よく思われたい、愛されたいと思うことによって、〇〇しなければならないという思いを抱くようになり、これが、私たちを不自由にし、苦しめているのです。これが律法の奴隷となった私たちの姿です。

この律法から解放され、奴隷から解放されるためには、愛されたいという願望を満たすしかありません。これは、イエス・キリストによってしか、満たすことができないものです。イエス様との関係が深まると、イエス様に愛されている自分に気づくようになります。イエス様に愛されている自分を受容できるようになります。そうすると、人から愛されようとするのがばかばかしくなり、この世の価値観や権威から解放されるのです。宗教改革者であるルターは、これを「キリスト者の自由」と言いました。神に愛されているという関係が深まれば深まるほど、自由になるのです。

2. 平安が得られる

平安は、安息とも呼ばれ、その源は神への信頼です。神様に近づけば近づくほど、神様を信頼できるようになります。イエス・キリストは、「私を与える平安は、この世が与えるものとは全く違う」と言われました。

神を信頼する心から生まれ、神のことばが安心の保障になるのです。神の言葉を信頼できるようになればなるほど、平安が得られます。これが私たちの希望です。

3. 愛が回復する

神との交わりが深まれば深まるほど、私たちの中に愛が回復します。神を愛し、人を愛するという私たちの本質を取り戻すことができるのです。人が抱くつらさの源は、愛せないという一言に尽きます。なぜなら、人は、愛するように造られているからです。愛せないことほどつらいことはなく、愛することほど喜びになります。愛することが、最も私たちに安らぎをもたらすのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。」
(Iヨハネ 4:10-11)

私たちが神の愛にふれるなら、恐れが取り除かれて、自然に人を愛するよう変わっていきます。

神を愛し、人を愛せるようになること、それが私たちの本来の生き方であり、それを取り戻すことが、私たちの真の希望です。それはイエス・キリストから始まっています。イエス・キリストに近づき、神を愛し、人を愛するという本来の自分を取り戻すことが、今ここにあり、これから向かっていける希望なのです。

死んでも永遠に生きるとか、問題が解決されるとか、それらは派生的な希望です。本当の希望は、あなたが愛を回復することにあります。それが、私たちが永遠のいのちを持ち、それを豊かにするということです。